

2020年6月18日

社長メッセージ

～2020年度株主総会を終えて、15,123名の株主様へ～

株主の皆様におかれましては、平素より格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。
本日2020年6月16日（米国太平洋標準時間）、2020年度株主総会が米国、カリフォルニア州 サンディエゴにて無事に終了いたしましたので、ご報告を申し上げます。

今年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により開催が心配されましたが、細心の注意を払って対策を講じ、予定通りに開催することができました。インターネットや郵送で決議にご協力いただきました株主様には、心よりお礼を申し上げます。

本株主総会におきまして、当社が提出しました3件の議案はすべて承認されました。ありがとうございました。

この場をお借りして、株主の皆様には2019年の総括と2020年の展望等につきまして簡単にご説明させていただきます。

2019年を振り返りますと、主要プログラム MN-166（イブジラスト）において大きな進展がありました。まず、再発性グリオブラストーマ（神経膠芽腫）の患者さんを対象に TMZ（テモゾロミド）と MN-166 の併用療法による臨床治験が、米国の最も著名な治療機関の一つであるダナ・ファーマー癌研究所で開始されました。ALS（筋委縮性側索硬化症）と DCM（変性性頸椎脊髄症）プロジェクトはフェーズ 2/3 のステージに進みました。5月に DCM の臨床治験のキックオフミーティングが、主要治験責任医師が所属する英国ケンブリッジ大学で開催されました。ALS の治験については治療期間を延長し、オープンレーベル期間を加えるプロトコル改訂を10月に行いました。「COMBAT-ALS」というスタディ名が付き、北米の複数治験サイトがオープンしました。一方、MN-001（タイペルカスト）は、国立循環器病研究センターと共同研究を開始し、国内でも素晴らしいコラボレーションが進んでおります。

知的財産確保にも精力的に取り組みました。日・米・欧州・中国・カナダなど世界各国で複数の特許承認を受け、MN-166、MN-001 の価値の向上を図っています。

次に2020年の開発プランについてですが、MN-001 はすでにご説明した通り、血清中性脂肪値やアルコール性肝障害をターゲットとした開発を始めるために準備を進めています。MN-166 は現在7つの治験が進行しており、新しく加わる治験を含めて、引き続き臨床治験を中心に開発に注力していきます。

しかし皆様もご承知の通り、私共の活動地盤である米国は、COVID-19 感染流行状況が日本以上に深刻で、当局や各医療施設の規制や方針に従いながら治験を進めている状況です。様々な影響が起きている状況を鑑み、適時適切な経営判断をしていくこととなります。資金確保に留意し優先順位を考慮しながらフレキシブルな判断でプロジェクトを遂行していくことが大事だと考えています。一方で COVID-19 の流行は、新たな開発機会をもたらしました。MN-166 がウイル

ス感染などに起因する重症肺炎や ARDS（急性呼吸器窮迫症候群）の治療に効果があるという動物モデル研究成果を受け、ただちに COVID-19 を原因とする ARDS を対象とする開発を始めることを決断しました。

最後になりますが、東京証券取引所の上場を維持するための審査に向けた手続きについてご説明します。現在、東京証券取引所の審査に必要な書類作成などを行っております。上場廃止猶予期間が 2020 年 12 月 31 日まで延長されましたので、上場維持審査をクリアすべく必要準備を進め、本件を速やかに解決し、皆様にご安心いただけるよう努力いたしますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後も株主の皆様のご期待に応えられるよう社員一同、全力で臨床開発に取り組んでまいりますので、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上

メディシノバ・インク
代表取締役社長兼 CEO
岩城 裕一